

富山大学
研究推進フォーラム
環境編

循環が見える地で、高みへ、そして探究へ。
富山ならではの知の連鎖をもとめて、未来に続く研究テーマはここから生まれる。

第1回シンポジウム

高低差4,000mからの警鐘
地域の自然から地球環境と循環型社会を考える

入場無料[定員200名]

平成21年3月6日[金] 13:00~17:00
富山大学理学部 多目的ホール(五福キャンパス内)
主催:富山大学

特別講演

「海の温暖化と異常気象」

講師: **山形俊男** 先生 東京大学大学院 理学系研究科 副研究科長

環境変化

「高山生態系の成り立ちと
地球温暖化の影響」

講師: **工藤 岳** 先生 北海道大学大学院 地球環境科学研究院 環境生物学部門 准教授
コメンテーター: **和田直也** 先生 富山大学 極東地域研究センター

環境保全・修復

「日本海の藻場と磯焼けを考える」

講師: **藤田大介** 先生 東京海洋大学 海洋科学部海洋生物資源学科 准教授
コメンテーター: **星野一宏** 先生 富山大学 大学院理工学研究部

循環型社会

「循環型社会の構築に向けた経済学からのアプローチ
日本の産業廃棄物処理制度を例に」

講師: **新熊隆嘉** 先生 関西大学経済学部 教授
コメンテーター: **山本雅資** 先生 富山大学 極東地域研究センター

富山大学 研究推進フォーラム

環境編

第1回シンポジウム
高低差4,000mからの警鐘
地域の自然から地球環境と循環型社会を考える

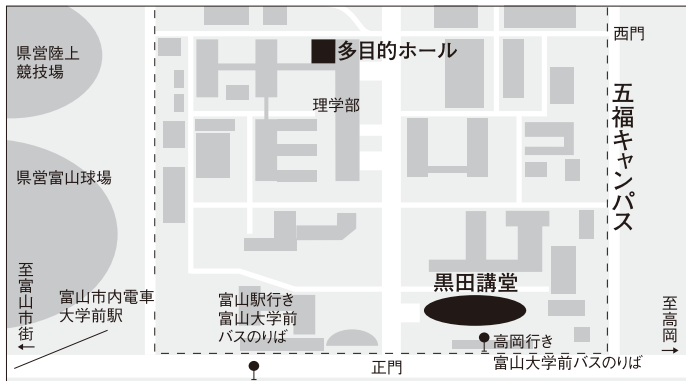
入場無料[定員200名]

平成21年3月6日[金] 13:00~17:00

立山連峰から富山湾に至る高低差4,000mの富山は、水の循環を体感できる場所。この水の循環は、陸上ならびに海洋生態系を育むために必要不可欠な働きをする一方で、常に局地的あるいは広域的な環境変化の影響に晒されています。これを「地球環境の縮図モデル」と捉えることによって、循環型社会の構築へ向けた具体的な研究が可能になるのではないのでしょうか。本シンポジウムは地球環境と地域環境をキーワードに、環境研究の最前線で活躍されている先生方を講師にお迎えし、今後の富山大学における研究の方向性と他大学・他機関との連携を探る機会として開催します。

会場:富山大学理学部 多目的ホール(五福キャンパス内)

JR富山駅より:市電富山大学行き乗車、約20分「大学前」下車、徒歩10分
地鉄バス富山大学方面行き乗車、約20分「富山大学前」下車、徒歩3分



参加のお申込み

※会場準備の都合から、事前申し込みにご協力ください。
※お申込みの際は、申込み欄に記入し、FAX076-428-9156までお送りください。
申込・問合せ:富山大学研究推進フォーラム 事務局(生活ネット研究所内)
〒939-8063 富山市小杉120 TEL076-428-9166

スケジュール

- 13:00 あいさつ
- 13:10 特別講演「海の温暖化と異常気象」
講師:山形俊男先生
- 14:10 環境変化「高山生態系の成り立ちと地球温暖化の影響」
講師:工藤 岳先生
コメンテーター:和田直也先生[富山大学 極東地域研究センター]
- 15:00 コーヒーブレイク

講師 講演要旨・プロフィール

「海の温暖化と異常気象」

山形 俊男 先生 東京大学大学院 理学系研究科 副研究科長

地球温暖化に伴う熱の9割は海洋に蓄積される。この結果、1961年から2003年の間に世界海洋の水温は3000メートル以浅で摂氏0.037度上昇した。水温上昇は表層の250メートル以浅で著しく、熱帯海洋においてはエルニーニョ現象やダイポールモード現象など、異常気象の母胎となる気候変動現象が頻発するようになった。こうした気候変動現象の発生を数シーズン前に予測する試みについて紹介する。

【プロフィール】1971年東京大学理学部地球物理学科卒業。77年理学博士(東京大学)。海洋変動や大規模な大気海洋相互作用現象(エルニーニョなど)の解析、モデリング、予測の研究に携わる。日本気象学会賞、日本海洋学会賞、米国気象学会スベルドラップ金メダルなど受賞。2005年紫綬褒章受章。

「高山生態系の成り立ちと地球温暖化の影響」

工藤 岳 先生 北海道大学大学院 地球環境科学研究院 環境生物学部門 准教授

日本の高山帯において、積雪分布の不均一性が作り出す環境変動は生物多様性を生み出す原動力である。地球温暖化は高山生態系に深刻な影響をもたらすと考えられ、気候変動に伴う環境変化は生物多様性を大きく減少させると予測される。現在進行している高山生態系の変貌について紹介し、生態系理解の重要性について言及する。

【プロフィール】1985年東京農工大学農学部林学科卒業。87年北海道大学大学院環境科学研究科修士課程修了。91年同博士課程修了。同大学院助手、カルガリー大学客員研究員などを経て2000年より現職。植物生態学や気候変動と生態系の応答など多様な研究を行う。1997年日本生態学会宮地賞受賞。

「日本海の藻場と磯焼けを考える」

藤田 大介 先生 東京海洋大学 海洋科学部海洋生物資源学科 准教授

海藻や海草は藻場を形成し、多くの魚介藻類を育み、陸上で生活する人間にも様々な恩恵を与えてきた。しかし、沿岸を取り巻く環境が大きく変化する中で、古くから磯焼けと呼ばれてきた藻場の衰退や消失が年々深刻化している。藻場の維持・回復には、産官学民の理解・支援・実行が不可欠である。

【プロフィール】北海道大学水産学部水産増殖学科卒業。同大学院水産学研究科博士課程修了。1986年水産学博士(北海道大学)。富山県水産試験場勤務などを経て2003年より現職。磯焼けや有用海藻、磯根資源、海洋深層水の研究に携わる。大規模磯焼け対策促進事業検討委員会委員長など公職も多数。

「循環型社会の構築に向けた経済学からのアプローチ 日本の産業廃棄物処理制度を例に」

新熊 隆嘉 先生 関西大学経済学部 教授

自然科学が技術革新によって環境問題を解決しようとするのに対して、社会科学とくに経済学は制度設計による解決を試みる。経済学ではどのように環境問題を捉え、どのように解決策を導いていくかを簡単に解説し、その応用例として、日本の廃棄物処理の許可制度に関する研究成果を紹介する。

【プロフィール】1993年慶應義塾大学経済学部卒業。1998年京都大学大学院人間・環境学研究科より博士(人間・環境学)取得。東京外国語大学外国語学部助教授などを経て、2008年より現職。専門分野は廃棄物処理・リサイクルの経済分析。環境省「小型家電のレアメタル回収等研究会」委員。

■交流会 会費2,000円

シンポジウム終了後、五福キャンパス内「黒田講堂会議室」にて交流会を開催します。講師の方々とは身近に意見交換いただけるチャンスです。多数のご参加をお待ちしております。

- 15:20 環境保全・修復「日本海の藻場と磯焼けを考える」
講師:藤田大介先生
コメンテーター:星野一宏先生[富山大学 大学院理工学研究部]
- 16:10 循環型社会「循環型社会の構築に向けた経済学からのアプローチ 日本の産業廃棄物処理制度を例に」
講師:新熊隆嘉先生
コメンテーター:山本雅資先生[富山大学 極東地域研究センター]
- 17:00 終了 17:30 交流会

富山大学研究推進フォーラム[環境編]第1回シンポジウム

参加申込書

FAX.076-428-9156

ふりがな 氏名	
ふりがな 氏名	
交流会	参加します[人] 参加しません ※会費2,000円(当日お支払いください)

※ご記入いただいた個人情報、このフォーラム開催のみに使用し、その他の目的には使用いたしません。

代表者 住所	〒
電話	

3月2日(月)までにファックスをお送りください